

## 平成 29 年度 第 1 回 学校評議員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 6 月 30 日 (金) 15:30～16:35
- 2 場 所 千厩高等学校 会議室
- 3 出席者 学校評議員 藤原 美喜男 氏、菅野 秀夫 氏、佐々木 謙一 氏  
伊藤 一志 氏、小野寺 勝 氏  
学校職員 校長、副校長、総務主任、教務主任、生徒指導担当、進路指導主事  
生産技術科主任兼農場長(代理出席)、産業技術科主任

### 4 学校概況説明 (資料説明)

### 5 質 疑

【評議員】 教育環境整備の進捗状況について、教えていただきたい。

【学 校】 グランドの造成工事は順調に進捗している。弓道場が今年度 3 月末には完成予定である。ソフトボールグラウンド、野球グラウンド、テニスコートは、平成 3 2 年度完成予定である。

【評議員】 農業関係の授業には支障がないか。

【学 校】 水田は整備中で使えない状況である。次年度は、作付け予定であり約 40 a 程度の見込みである。

【評議員】 学校経営上の困り感は何か。

【学 校】 ベクトルを 1 つにまとめることに留意した。

また、強みがあるかを職員も生徒も理解する必要があると考え、それにより学校経営の優先順位を定めていきたい。

さらに、課題をどのようにしていくか、解決の知恵を出す上で、職員が自分のこととして捉えられるよう、意識改革が大切だと考えている。

学校経営では、PDCA サイクルの C を重要視し、その都度改善して行きたい。

次回の学校評議員会では、お示しした学校運営計画について、委員の皆様から御意見をいただきたい。

- 【評議員】 家庭教育の在りようや地域の教育力が子どもたちの成長に影響していると考えている。学校、家庭、地域がベクトルを合わせ、三位一体となって子ども育成に当たることが健全育成につながると考えているが、その当たりの課題を伺いたい。
- 【学 校】 本校は、比較的地域と密接に繋がっており、地域から大切にされている。学校に対する苦情も少ない方であると思われる。生徒への寄り添いを大切にしている。
- 【評議員】 生徒への寄り添いに加え、保護者への寄り添いもお願いしたい。そのことにより、子どもたちの生活環境がより良いものとなるを考える。
- 【学 校】 ここ2、3年、支援が必要な生徒が増えておりその対応が課題となっている。特に食物アレルギー等の身体的配慮が必要な生徒が増えてきている。そのような支援を必要とする生徒を就職するところまでをどう指導していくか、どのような指導体制が適切か、進路指導上だけでなく学校の課題として感じている。
- 【評議員】 県内高校生の就職希望者の40%が県外を希望しているそうだが、原因や理由は何か。
- 【学 校】 原因や理由は把握していない。ただ、例年と比較し関東や県外の求人の動きが速い。
- 【評議員】 私の勤務先では、支援を必要とする生徒さんの受け入れ体制ができている。支援が必要な生徒さんが就労を希望している場合、その就労希望先の企業さんと密に連絡を取られ、円滑な移行となるようお願いしたい。
- 【評議員】 地域の農業を守っていかなければならないと考えている。農業をやりたいという方がいましたら、連絡を密に体験学習なり色々な面から支援していきたい。
- 【評議員】 この先、さらに生徒数が減少していく。学校ホームページやマスコミ、新聞によりPRされ、千厩高校の良さの発信をされて欲しいと思う。
- 【評議員】 学級減を辞さない状況が予測され、学校の維持が大変になると思われる。生徒や保護者の心に寄り添う姿勢が求められ、また大切だと感じている。
- 【評議員】 千厩駅の花壇整備など、インターアクト委員会をはじめ千厩高校生が、地域社会に根ざした社会奉仕、社会貢献をしている。感謝している。社会奉仕活動への誘いやロータリーの翼など、今後も応援して行きたい。
- 【評議員】 産学連携の下に、地元企業を希望する生徒さんを引き続き応援していきたいと考えている。